

# いちかわのほとり NEWS

## 市川(砥堀工区)の現状を視察しました

第2回市川砥堀工区河道計画検討委員会が開催されました



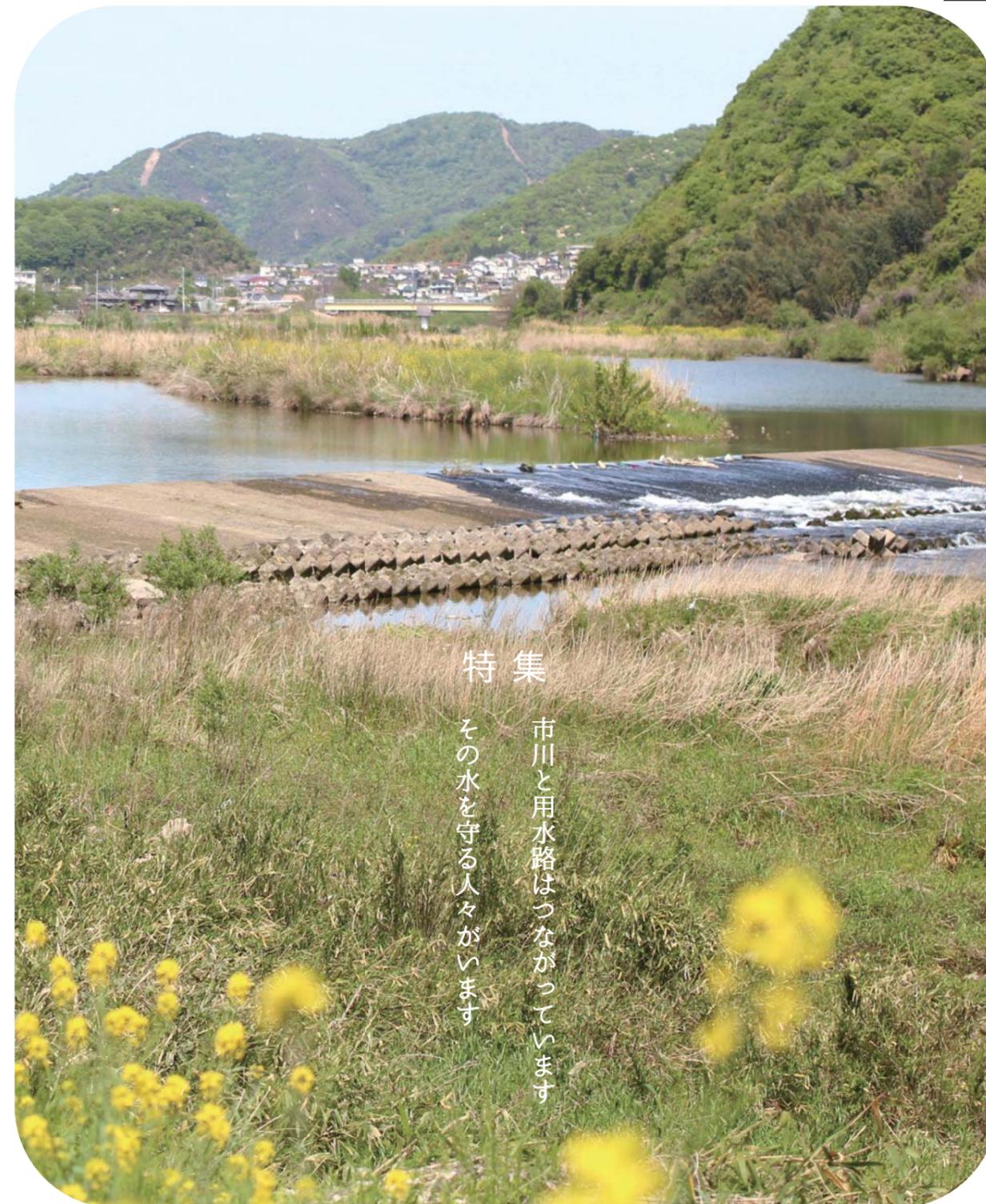
平成29年2月21日13時より、第2回市川砥堀工区河道計画検討委員会が開催されました。当日は委員・事務局のメンバーが市川砥堀工区の現状について確認するために現地を視察しました。現地視察後、姫路総合庁舎職員福利センター会議室において、意見交換を行い、各委員の市川の現状に関する意見を共有し、次回以降の検討委員会で検討すべき内容についてのアドバイスを頂きました。

### 【主な意見・アドバイス】

- 花田井堰は老朽化・損傷など安全性が懸念される。施設が流出すれば、河道の安定に対し大きな問題となり、下流の流下能力にも影響する。この点について調査検討願いたい。
- 近年、短時間豪雨、水害が頻発していることを考慮すれば、飾磨井堰は現状のままで良いのか、見直しをする必要があるのか検討いただきたい。
- 近年は農地の宅地化が進み、農家は減ってきており、組合員の高齢化も進んでいる。現時点でも施設の維持管理にかかる負担も大きくなりつつあり、今後、井堰の維持管理をどのように考えるかが大きな課題である。
- 中州については、生物の生息場としてだけでなく、脱窒による水質浄化の機能、洪水時の魚類避難場所としての機能があるため、検討を行う場所ごとに治水面、環境面を評価し対応を検討すべきである。

### 【次回開催日程】

第4回市川砥堀工区河道計画検討委員会は、平成29年9月開催予定です。  
詳細な日程が決定しましたら、姫路土木事務所ホームページについてご案内いたします。



## 特集

その水を守る人々がいます

市川と用水路はつながっています

市・いちかわ・川のほとり

平成29年6月号 2017 VOL. 2

※砥堀工区とは、砥堀、水上、花田地区のことです。

砥堀工区市川改修情報紙



このニュースレターについてのお問い合わせやご意見は、下記までご連絡ください。

兵庫県中播磨県民センター 姫路土木事務所 河川砂防課

TEL:079-281-9483 FAX:079-281-4948 Eメール:himejidoboku@pref.hyogo.lg.jp



船場川

しまいせきすいりくみあい  
【飾磨井堰水利組合】  
しかまひもん  
市川から飾磨樋門を通じて取水し、船場川を通じて利用される農業用水を管理する組合です。現在は船場川沿いの21の農区で構成されています。飾磨樋門で取水された市川の水は、山陽電鉄の南側の地区まで配水され、沿岸部の地域でも利用されています。



まちの中の用水路

飾磨井堰水利組合が管理している飾磨井堰と飾磨樋門。約270年前にこの飾磨樋門が決壊し、大勢の人が亡くなりました。飾磨井堰水利組合では、農業に必要な水を市川から取水するとともに、洪水から地域を守るための飾磨樋門の取水量調整ゲートを管理しています。ゲート操作のノウハウは歴代の組合長の経験が引き継がれていますが、市川の水位が高くなると水圧でゲートが操作できなくなることもあり、大雨警報が発令された時点でゲート閉鎖に駆けつけるとか。絶えず注意をはらわれている姿勢に頭が下がります。飾磨樋門を通った市川の水は船場川を通じて農業に使われるのに加え、姫路市保城浄水場、町裏浄水場にも供給され、姫路城のお堀の水としても利用されています。「今も昔も飾磨樋門は姫路にとって重要な施設」と大塚組合長は力強くお話されていました。



## 今も昔も飾磨樋門は姫路にとって重要な施設



しまいせきすいりくみあい  
飾磨井堰水利組合

組合長 大塚 強 さん  
古川 美好 さん  
田路 忠好 さん  
薬師橋

左から田路さん、古川さん、大塚さん

## 特集

市川と用水路はつながっています  
その水を守る人々がいます



ほトリくんと  
タカハシガ  
レポートします

市川砥堀工区には花田井堰、飾磨井堰があり、それぞれ花田井郷中と飾磨井堰水利組合が市川からの取水や用水路の管理をしています。日々活動されている皆さんから活動内容やその思いをお伺いしました。

はなだいごうちゅう  
花田井郷中

代表 井上 哲夫 さん  
井守 竹中 英世 さん  
中野 一夫 さん

はなだいごうちゅう  
【花田井郷中】

市川から取水した水を利用する花田地区と御国野地区の9地区で構成されています。井堰の水管理を統括する役職は「井守」と呼ばれ、江戸時代から現在に至るまで加納原田地区に置かれています。



左から井上さん、中野さん、竹中さん

## もっと市川の水の大切さを知ってほしい

花田井郷中の皆さんは普段、用水路の取水量調整ゲートを管理されていますが、大雨が降り水位が高くなるといち早くゲートを閉鎖しに駆けつけます。花田地区を洪水から守るためとは言え、日々苦心されています。また、用水路は大雨が降るといっきに水があふれるので定期的なごみ清掃は欠かせないとのこと。「用水路にごみ捨てはやめてほしい」と訴えます。一方で用水路には小さなエビ、ドジョウ、ザリガニが棲んでいて近所の子どもたちが捕まえにくるそうです。「子どもたちにもっと川や用水路に親しんでほしいと思う反面、急な流れや深みもあって、危険も隣り合わせだということも学んでほしい。そして地域みんなで市川の水の大切さを知ってほしい」ともおっしゃいます。「市川や花田地区を次世代へつなぐ」この熱い思いで、日々管理に取り組む花田井郷中の皆さんの姿がありました。



用水路にたまったごみ



取水量調整ゲートの前で井守の竹中さん



「用水路にはこんな小さいエビがいます」と井上さん